

# 日本システム監査人協会報

## 新「システム監査基準」にみる 情報システムの有効性の監査の視点

No. 461 橋和 尚道

### 1. はじめに

システム監査の実施率が、ここ数年間28%台で伸び悩んでいる。システム監査を実施していない理由として「監査よりシステム化推進に力点」など、システム監査要員を含めた実施環境や基盤が十分でないことがあげられている。<sup>1)</sup>

そこで情報システムの有効性を、システム監査で評価する点を強調すれば、そのニーズも高まり更に実施率があがるのではないかという意見もあり、この辺の啓蒙・宣伝の必要性を痛感していたところである。

新しい「システム監査基準」では、この有効性の監査の視点が、随所にみられるが、これを活用した有効性監査の普及を期待したいので、新基準について何か書けとの会報担当理事の要請に応えるべく、不勉強を省みず掲記のテーマに挑戦したので、是非ご意見、ご批判をお寄せいただきたい。

### 2. 情報システムの有効性監査のニーズ

当協会の事例研究会座長の鈴木実理事が、システム監査学会での発表<sup>2)</sup>の中で経営者がシステム監査に期待するものとして、次の4点をあげられた。

- ① 現行システムがどの程度有効に機能しているのか、第三者としての評価を期待
- ② 投資効果(費用対効果)が出ているかの評価
- ③ 現行システムの改善策はなにか
- ④ 次期システムはどうあるべきか

これらの期待は、いずれもコンサルティングの要素が強いが、情報システムの有効性の評価を期待するという点で、有効性の監査のニーズの大きいことを示していると言える。

一般に経営トップは自社の情報システム部門を信頼しながらも、「果たして本当にうまくやっているのか、効率的かも知れないが、効果はどうか、あるいは他社と比較してどうなのか」などの不安や疑問を抱いている。こういった不安に

応えられるのが、有効性のシステム監査なのである。

従って、システム監査のこのような役割を経営者に知らせることによって、システム監査の重要性・有用性の認識が高まり、ひいてはシステム監査の普及につながるものと思われるのである。

### 3. システム監査基準の情報システムの効率性 —情報システムの効率性と有効性

新システム監査基準の冒頭に主旨として「本基準は、情報システムの信頼性、安全性及び効率性の向上を図り、情報化社会の健全化に資するため、システム監査に当たって必要な事項を網羅的に示したものである。」と書かれている。

また引き続き用語の定義には、「効率性……情報システムの資源の活用、及び費用対効果の度合」と規定されている。

旧基準の解説書では、効率性の向上を、システムのリソースを最大限に活用すること、コスト/パフォーマンスの向上をはかることとされていた。<sup>3)</sup>またその2年後に出された解説書では、これを「リソースの有効利用、コスト・パフォーマンスの向上、目的達成度合など」と目的達成度合を追加され、更に「効率性(有効性)」として、効率性には有効性を含むとの解説がなされていた。<sup>4)</sup>

このように効率性に有効性が含まれるかどうかの論議は勿論のこと、有効性監査の必要性については既に論議済みのこと—システム監査学会など、中央大学遠山教授ほか<sup>5)</sup>—とされている。

従って本来ならば、上記の用語の定義に「目的達成度合」を含む旨の解説があるものと一般に期待されていたのであるが、改訂版解説書<sup>6)</sup>には基準の前文の「主旨」や「用語の定義」の解説は残念ながら掲載されていないのである。

しかし、その解説がないからと言って、システム監査基準でいう「効率性」には「有効性」が含まれないということにはならないと思われる。なぜならば、実施基準の中には有効性の監査項目が、以下に述べるように多数含まれているからである。

#### 4. 新基準における有効性監査の視点

情報システムの有効性を監査する場合に必要な監査項目を、システム監査基準に求めると、実施基準の一つ一つがどれも該当してくると思われる程多いのである。特に企画業務については、その全ての基準項目が該当するといっ

てよい。なぜなら、情報システムの有効性の監査の視点を、情報システムが所期の目的を達成し、効果をあげているか<sup>7)</sup>ということにすれば、次のような項目が関係してくるからである。

まず、そのようなシステムを開発すべき経営戦略・情報戦略が前提としてあるか、また開発が可能となる機構、組織、資源の状況であるかどうかなどから始まり、情報システムの信頼性、安全性を含めて、所期の目的を達成し効果を発揮する可能性や、発揮している状況を評価することになるから、監査の項目も総合的となり、経営監査的視点となる。

ここで、該当する全ての基準項目を列挙しても意味はないので、その主要な点に絞ってまとめてみようと思う。

##### (1) 経営戦略ないし情報戦略の評価

情報が経営資源としての重要性を増せば増すほど、情報システムの果たす役割も経営戦略上ますます重要になってくる。

情報システムの有効性を監査する場合、「所期の目的」の基本となった経営戦略と、それに基づいて策定された情報戦略の評価が必要となる。システム監査基準では、企画業務には、

1(1) 情報戦略は、経営戦略との整合性を考慮して策定しているか。

1(3) 情報戦略の有効性を評価しているか。

この二つの基準項目が新設されている。

この場合、情報戦略の策定者やその有効性の評価者が誰であるかなどの問題もあるが、システム監査人が、情報戦略について経営戦略との整合性やその有効性を評価できるようにならないと、情報システムの有効性の監査について結論が出せないことになる。大変重みのある監査項目というべきで、以下の諸点もこれが基本となっていると言える。

##### (2) 情報システムの全体像の把握

情報システムの有効性の監査の視点は、情報システムを、その果たす「効果」を切口として、総論的に評価する視点である。システム監査人としては、いきなり各論の監査に入るのではな

く、先ず全体を見るということが必要となる。

2(4) 全体計画は、情報システムの全体像を明確にしているか。

システム監査人として、木を見て森を見ずということにならないよう、常に心がけたいものである。なおこれも新設された項目である。

##### (3) システム部門の組織、要員、資源の状況

効果のある情報システムの開発が可能となる企業戦力としてのシステム部門の評価をその管理運営状況を含めて行う必要がある。

情報技術・資源は、今日では企業経営にとって重要な戦略的資源となっており、その評価が重要である。

2(3) 全体計画は、情報化の効果、推進体制費用等を明確にしているか。

4(13) 開発を遂行するために必要な要員、予算、設備、期間等を確保しているか。

これらの基準項目は個別の開発プロジェクトを対象とするだけでなく、システム部門の企画、開発、運用及び保守業務の全てに係る戦略的資源の評価に関連すると理解する。

このほか、人材資源の評価の視点から、共通業務の中の「要員管理」の基準項目を補足する必要があり、また戦略的資源のアウトソーシングの場合には、同じく「外部委託」の基準項目が参考となる。

##### (4) 業務計画とその遂行状況

情報戦略に基づき、情報システムの短期・長期の計画がたてられ、具体的に遂行されているかを評価する。経営計画と情報システム計画の整合性、情報システムの全体計画と開発計画の整合性の問題とその遂行状況である。

これらに係る基準項目は、2全体計画の(1)から(8)までと、3開発計画の(1)から(5)までの全ての項目が関係してくる。その中でも特に留意すべき項目として、次があげられる。

2(3) 前掲

2(8) 全体計画は、定期的な見直し及び経営環境等の変化に対応した見直しを行っているか。

3(4) 開発計画は、目的、対象業務、費用対効果等を明確にしているか。

システムの開発計画は、経営環境等の変化によって、急遽見直しを迫られることも稀ではない。計画の遂行状況を評価したり、見直し後の修正計画を評価するにあたり、これらの基準項目が重要な視点になる。

## (5) 適用業務システムの有効性の評価

情報システム(アプリケーション・システム)の有効性の評価、つまり前述の「情報システムが所期の目的を達成し、効果をあげているか」の評価の問題である。

有効性の評価の考え方については、前掲の拙稿<sup>5)7)</sup>ほか<sup>8)</sup>に詳しく論じているので、ここでは省略し、基準項目の整理を考える。

## ① 所期の目的の把握

まず、始めに情報戦略ありきから出発する。即ち前掲の情報戦略の二つの項目(1(1)(3))と全体計画(2(3))、開発計画(3(4))の項目を受けて、4システム分析・要求定義の項目から

- 4(1) 開発計画に基づいた要求定義は、開発及びユーザの責任者が承認しているか。
- 4(2) ユーザニーズの調査は、対象、範囲及び方法を明確にしているか。
- 4(3) 実務に精通しているユーザが参画して現状分析を行っているか。
- 4(9) 情報システムの目的を達成する実現可能な代替案を作成し、検討しているか。

がある。

## ② 目的の達成度合、発揮している効果の評価

情報システムの有効性の評価尺度は、ユーザの満足の度合いとすることとし、また定性的効果を出るだけ定量化して評価する方法としてユーザアンケート方式などを利用する。<sup>7)8)</sup>

基準項目でまず関係があるものとして、実施基準のロ 開発業務の2システム設計から

- 2(2) ユーザが利用しやすく入出力帳票、入出力画面等を設計しているか。
- 2(3) データベースは、業務の内容に応じて設計しているか。
- 2(4) データの保全性を確保しているか。
- 2(5) ネットワークは、業務の内容に応じて設計しているか。
- 2(6) 情報システムの性能は、要求定義を満たしているか。
- 2(7) システム構成は、ピーク時を想定して設計しているか。

があり、イ企画業務の4システム分析・要求定義の基準項目として、次がある。

- 4(12) 情報システムの効果の定量的及び定性的評価を行っているか。

有効性の監査に際しては、この項目によりシステム部門の評価をチェックすると同時に、システム監査人が上記の尺度や方法で、第三者と

して客観的に評価を行うことになる。

## (6) 情報化投資・経費の状況

費用対効果の費用即ち分母の問題である。本来前述の効果の評価と一緒にあるべきであるが、企業のインフラ化した情報システムの投資・経費と新規開発プロジェクトの投資・経費の区分が難しく、定性的効果の分子を分母と同じ基準で定量化しにくいなどのため、効果とは別に評価せざるを得ないと考えている。

基準項目としては、イ企画業務の中から

- 2(3) 前掲(全体計画)
- 3(4) 前掲(開発計画)
- 4(11) 開発及び運用費用の算出基礎を明確にしているか。
- 4(13) 前掲(システム分析・要求定義)

があげられるが、2(3)の全体計画で、情報化の費用を全体で把握し分析することが重要である。

業界内平均値や同業他社の数値、あるいは隣接業界のデータなど前年度比較を含めて分析できれば効果的である。

## (7) 情報システムの信頼性・安全性の評価

情報システムの品質、信頼性の向上や安全性の向上が、如何にはかかれているかという問題も、情報システムの有効性を大きく左右する問題である。

事故や障害の発生、不正アクセスやデータの漏洩の問題については地震などの災害に遭遇した場合など、いざという時に効果を発揮できない情報システムでは、たとえ戦略的效果の高いシステムでも、その有効性を評価することは出来ないことになる。

かかる観点から見た基準項目を列挙するには紙数が足りないと言わねばならない。そこでこれを一点に絞れば、ホ共通業務のe災害対策ということになる。その項目だけをあげる。

## 災害対策

- 1 リスク分析(基準項目3項目)
- 2 災害時対応計画(基準項目4項目)
- 3 バックアップ(基準項目2項目)
- 4 代替処理・復旧(基準項目2項目)

## 5. おわりに

## (1) 情報システムの有効性の監査について

有効性の監査について、適用業務システムの有効性に絞らずに広義に解して論じたが、実際

に監査を実施するには、テーマを細分化するか広範囲にかつ要点を絞って行うなどの選択が必要であり、それを計画的に実施するよう配慮すべきである。

### (2) 新システム監査基準についての寄稿

この会報の前号と前々号即ちNo.38、No.39両号には、多くの実務家や学者の方がそれぞれ自由な立場から、新基準について寄稿していただいた。これからもいろいろな問題について、このような論議ができることを期待し、執筆者と会報担当の皆さんに感謝する次第である。

### (3) 新監査基準特別プロジェクトチームの活動

9月の理事会で、担当の小野理事より、次のように活動の中間報告がなされた。

[チーム1] 「プロトタイプ開発手法、DOA開発手法における新監査基準の適用ポイント」

(新監査基準の中から、上記開発手法を採用した場合に関連する項目を抽出し、解説を加える)

[チーム2] 「監査の始めの第一歩」

(監査を始める前に、前提知識を入手することを目的に、経営レベルの方を対象にヒアリング、アンケートを行う上でのポイント、書式をまとめる。)

[チーム3] 「監査の実施ポイント」

(新監査基準を活用して監査を行う上でのポイント、確認すべき資料、活用できる監査手続きをまとめる。)

本プロジェクトの完成が、今後のシステム監査の実施に当たって、大いに期待されるところである。

(注)

- 1) システム監査学会／(財)日本情報処理開発協会；システム監査白書95-96、pp.126-146
- 2) 「システム監査の経営ニーズと監査のポイント」、鈴木実氏、定例研究会、96.3.18
- 3) (財)日本情報処理開発協会；システム監査基準解説書、1985.8.30、p.35
- 4) (財)日本情報処理開発協会；システム監査Q&A 110、1987.9.10、pp.17-18
- 5) 遠山 暁；「情報システムの有効性とシステム監査」、システム監査、Vol.2、No.1、(1989) 拙稿；「情報システムの有効性監査の一考察」、システム監査、Vol.4、No.2、(1991)
- 6) (財)日本情報処理開発協会；システム監査基準解説書、1996.7.25改訂
- 7) 拙稿；「情報システムの有効性の監査について」日本システム監査人協会報、No.25(1993)
- 8) 拙稿；「情報技術の有効性の監査について-APISCA'93の報告」日本システム監査人協会報、No.28(1994) 拙稿；「情報システムの有効性の監査へのアプローチ」、システム監査、Vol.8、No.1、(1994) 共著、システム監査学会編；システム監査の理論と実践、1994.10.17、pp.73-90

## T社システム監査感想文

### No.619 事例研究会 村上 均

今回、土木・建築業を営むT社のシステム監査に参加しました。5名のメンバー(打矢隆司、大田克彦、小坂周一郎、吉田裕孝、私)プラス、サポーター3名(鈴木実座長、木村裕一、富山伸夫)で約4ヶ月間かけて実施しました。私自身、システム監査は、今回で3回目になりますが、リーダーとして参加するのは初めてで不安でしたが、みなさんのご協力とサポートのおかげで無事にやり遂げることができました。私にとって、進め方や指摘事項の絞り込み方法等非常にいい経験になりました。今回のシステム監査は、効率性、有効性に重点を置き、以下の3つの監査テーマに絞って実施しました。

- (1) 現行システム利用上の問題点の把握
- (2) システムの効果の確認
- (3) 未利用分野における情報技術活用の可能性の収集

実施に当たっては、事前準備に結構時間がかかりました。例えば、業界の理解や実態把握、動向・特殊性の収集、用語の理解、トップに対するヒアリング項目の洗い出し、監査先および各メンバーとの日程調整、監査計画の立案・調整、質問チェックリストの作成、対象システムの理解等ひとつひとつが大変でした。具体的には、以下のような日程で進めました。

- 3月27日(水) システム監査に関する説明実施(於：T社本社)
- 4月9日(火) 監査人協会へ経過報告、監査メンバー決定など
- 4月23日(火) T社経営幹部との面談(於：T社本社)
- 5月9日(火) 監査目標、監査計画、対象システム等の検討
- 5月23日(金) 質問チェックリストの作成、対象部署等の検討
- 6月1日(土) 予備調査(於：T社本社)
- 6月5日(水) 予備調査の結果取りまとめ及び次回本調査運営検討
- 6月15日(土) 本調査(於：T社本社)
- 6月19日(水) 前回本調査の結果取りまとめ及び次回本調査運営検討
- 6月29日(土) 本調査(於：T社工事事務所)
- 7月6日(土) 追加本調査(於：T社工事事務所)
- 7月9日(火) 調査報告書検討会1

- 7月12日(金) 調査報告書検討会 2  
 7月16日(火) 調査報告書検討会 3  
 8月3日(土) 監査報告会(於：T社本社)

T社の希望等から最初に報告日を8月3日に決めたこともあり、日程的にはきつかったと思います。今回のシステム監査で最も苦勞した点は、指摘事項の絞り込み作業でした。たくさんある中から何を指摘するか非常に悩みました。メンバー間でも意見が分かれ、その調整や方向づけに手間取りました。結局、原点にもどり、T社の依頼主旨及びトップの今回のシステム監査に対する期待等に照らし合わせて、緊急改善事項・通常改善事項を6つに絞って報告することにしました。また、報告内容には先輩からのアドバイスもあり、指摘事項だけではなく、良い点にもふれるなど、読んでもらえるよう配慮しました。最後のまとめ作業は、各メンバーから電子メールで報告内容を収集し私が行いました。ただ、あまりにも時間が足りず、報告書の原案が出来上がったのが報告日の一週間前でした。それを各メンバー、T社窓口担当者、サブメンバーの方々に、メールで赤入れ修正依頼を行い、最終版として完成したのが報告日の2日前でした。8月3日、システム監査の報告会を実施(副社長をはじめ16名出席)したところ、T社のトップから「短期間に適切な指摘をいただいた」と感謝され、やりがいを感じました。また、つい最近、フォローの電話を入れたところ、「報告書が好評で9月より指摘の緊急改善事項を取り入れ、実行に移す予定です」と言われ、監査人としての責任を感じました。今回は、役に立つ監査をしようとメンバーで決めて実施したこともあり、これを機会に、T社内に何らかの変革が起き、改善・改革が進むことを期待しています。参考までに、報告書の目次を掲載いたします。

ページ

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| 1. 今回のシステム監査テーマ ..... | 1～3   |
| 2. システム監査結果の要約        |       |
| 2.1 総括 .....          | 4～7   |
| 2.2 監査テーマ別の要約 .....   | 8～9   |
| 2.3 緊急改善事項 .....      | 10    |
| 2.4 通常改善事項 .....      | 11～13 |
| 3. システム監査実施概要 .....   | 14～17 |
| 4. システム監査結果の詳細 .....  | 18～29 |

## ISACA研究会聴講報告

日 時：平成8年9月30日  
 場 所：赤十字本社会議室  
 講 師：(株)野村総合研究所  
 情報リソース部部长 小澤 弘氏  
 演 題：イントラネットとセキュリティ

No. 526 富山 伸夫

## はじめに

(株)野村総合研究所(NRI)は、1966年設立、リサーチ、コンサルティング、システムの3事業で、資本金101億円、従業員はグループ企業を含めると2千8百人弱の総合コンサルティング企業である。

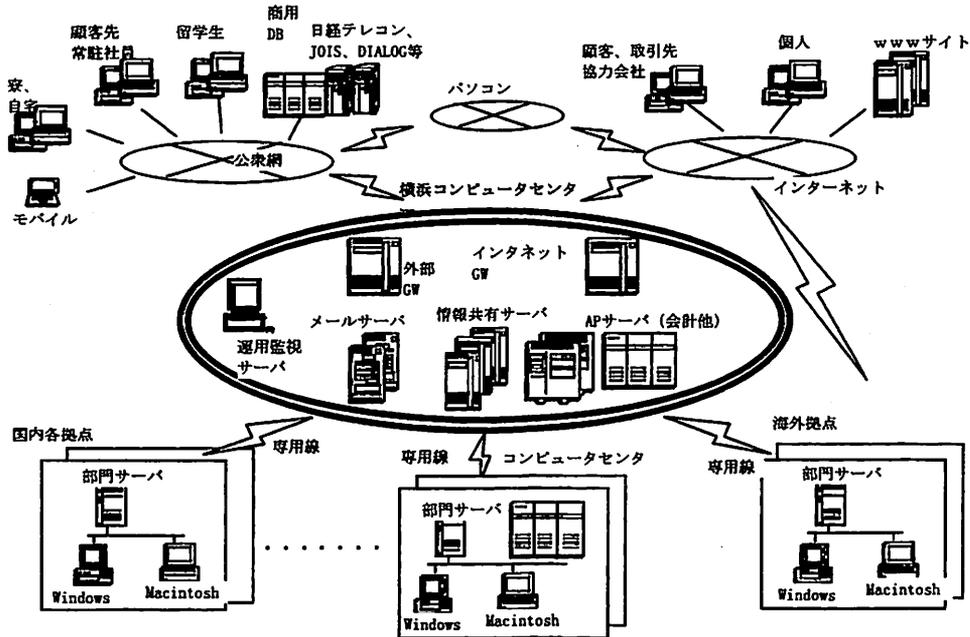
小澤氏はISACA東京支部の理事をなさっており、現職は情報リソース部長ということで、情報システムの管理だけでなく、情報コンテンツの管理にも当たられています。

## 講演要旨 経過と現状

イントラネットの前にその前史というべきコンテンツの蓄積の時期がありました。1988年に旧野村総研と旧野村コンピュータシステムが合併してから、2年後の1990年に横浜の保土ヶ谷に新しいビルを作り、集結してインフラの構築を始めたのですが、その時にTCP/IPのWANを敷き、電子メール、ファイル共有、会議室予約を始めました。1992年に情報リソース部ができ、全社情報共有、電子掲示板、電子電話帳、申請のメール化、外部情報、ライブラリ検索、RSS(リサーチサポートシステム)を始めました。1994年にWebを利用してイントラネット化したわけですが、その前に共有のコンテンツ(通報・連絡・社規・社則等)をテキストベースで蓄積してきたことが役に立っていると思います。

現在のシステムは全体像は図のような形になっていて、構成としてはサーバー80台、クライアント3千台以上、ネットワーク・LANには専用線・公衆網・インターネットを使っていますが、拠点間のスピードを上げて全体の速度が遅くならないよう取り組んでいます。

現在提供している機能をざっと紹介すると、まず電子メールですが、これは社長以下全社員が活用しております。社長が毎週全社員に経営会議の内容をA4一枚で配るので、これは見ないわけにはいかない。大体一人平均20通、私な



どはその倍は来るようで、1日あたり数万通は流れているようです。ニュースには社内の複数の発信元があって、各部門や専門分野の情報が見られるとともに、過去記事の蓄積と検索ができるようにしてあります。内部の共有情報としては、通報・連絡・社規・福利厚生・各種申請のほか、各部の業務報告、技術情報、顧客営業情報、業務支援、電子ライブラリ、等があります。そのほか情報処理試験のCAI独習情報、会社の出版物があります。外部情報としては、インターネットでの情報発信、外部情報へのアクセス、慶応大学と共同で行っている社会実験やショッピングモール・電子出版をおこなっており、日経テレコンにも繋がっています。

こうしたシステムの構築の経過ですが、まずステップ1として、ブラウザを全体に装備し、共有情報のgopher化と申請書のhtml化を行いました。次に検索システムのwww化とhtmlの全文検索化で、たとえば社内電話帳をこれに代えて紙の配布はやめました。第3のステップは、ウルトラナレッジと言っているのですが、全文検索エージェントでTEXT文を夜のうちに集めておき、自由に検索できるといった仕掛けとか、モバイル即ち移動先からアクセスできるものとか、グループウェアとの接続などをやりました。画面の詳しい内容は4月頃の日経コンピュータに紹介されています。

### 運用体制

こうしたシステムの運用と推進の体制についてですが、基本方針として各部の自立、自助努力を原則とし、部長の責任と権限において提供するコンテンツは各部で作成するというにしています。その上で徐々に改善し、コンテンツの充実とシステムの拡充をはかることにしています。情報リソース部としては、企画・開発を担当ということで、情報インフラの維持管理に当たります。これには情報管理ガイドラインとして、部門内の電子情報のルール、外部発表のルール、ウイルス対策、ソフト不正コピー禁止があります。次にネットワークの管理・整備即ちLAN.WANの監視・拡充とセキュリティがあります。その外に標準端末ガイドラインもだしております。

その他の支援体制として、技術支援は情報技術本部が、情報リテラシー教育は人材開発部がみるようになっております。運用・構成管理・保守・ヘルプデスクとして、NRIデータサービスが当たっています。ヘルプデスクは7月までは社内の部門がやっていたが、別会社に分社しました。有料のデスクトップサービスというものもあり、特に役員・理事さん達に好評です。

## セキュリティ

さて本題のセキュリティについてですが、セキュリティにはシステム系と人間系があります。人間系については、一般社員に対する社規として、機密情報管理規則、社外発表管理規程などがあります。センターに対しては、安全対策規程、安全対策監査規程があります。次にはウイルスチェック等も規程化が必要になるかと思っています。

システム系のセキュリティとしては、インターネットに対してはファイアウォールを設け、外からは入れないようにしています。またこのシステムは、ネットワークを通じてどこからでも仕事ができるバーチャルオフィスの形になるものですから、自宅とか寮で通信先が特定できる先はコールバック方式になっており、モバイル端末はICカードを使って毎回変わるワンタイムID方式をとっています。その他ゲートウェイには運用監査サーバーを設けています。

今後の展開方向

今後の展開としては、部門の広がりとして、グループ会社・取引先を含めた情報提供先の拡大、グループ会社や個人・チームからの情報発信元の拡大があります。また機能の拡充として、提供情報を固定情報から変化情報も取り込むこと、利用場所をもっと広げること、情報提供方法をネットワークの高速化とか変更情報の発信に向けて改善してゆきたいと考えています。さらに業務の高度化のために、プロジェクト作業の支援とか基幹業務との連動が出来るよう改良を図ってゆきたいと思っています。

## 主な質疑

- Q： 監査部門があって監査しているのですか  
 A： あります。センターの監査が主ですが、業務監査も目標にしています。
- Q： 外部ソフトの実稼動数を管理するための仕組みは何を使われていますか  
 A： キイサーバーです。これで管理しているの  
 でベンダーに信用してもらっています。
- Q： 暗号は使っていますか  
 A： 使っていません。これからは考えなければ  
 ならない情報はあると思います。
- Q： 決済書類の電子承認は考えられていますか  
 A： 今は紙です。業務を整理して少し割り切った  
 ルール作りがいると思っています。
- Q： 記事が溢れてきたら、自動削除などするの  
 ですか  
 A： 特にルールは作っていません。各部の責任  
 にまかせています。

Q： 外部の学会・講演会の情報はどこで扱って  
 いますか

A： セミナーのDMなどは人材開発部で掲載し  
 ています。

Q： 提案書・報告書の類は載せていますか

A： お客の情報であり、載せていません。

Q： 営業中の情報も載せるのですか

A： これは役員と営業担当部長しかアクセス出  
 来ません。ノーツできっちりセキュリティ  
 かけています。

## 受講後の感想

さすがに最先端をゆく総合コンサルティング  
 企業としてよくやられていると感心した。特に  
 企業として、以前から社内情報の蓄積利用に心  
 がけていたことが、最近のネットワーク技術の  
 進歩に結びついてきている。情報活用体制の進  
 んでいるところは益々先へ行くので企業格差が  
 広がる一方だと痛感する。

## システム監査人日誌

No. 39 川野 佳範

### 第13回(最終回)

平成4年2月1日(土)および2月2日(日)

平成4年2月1日(土)の午前中は、水道橋駅  
 近くの財団法人結核予防会第一健康相談所で健  
 康診断を行い、その後小雪降る白山通りを歩い  
 て神田神保町で昼食を摂った。そして、神保町  
 から地下鉄三田線に乗り内幸町で下車、外堀通  
 りを虎ノ門に向かって歩く。

この日は午後5時からEDP監査人協会東京支  
 部のCISA基礎講座の打ち合わせ(受講生を交え  
 た懇親会?)が愛宕一丁目にある東急インであ  
 る。あと4時間強時間の余裕があるため、虎ノ  
 門の琴平会館内のわが監査法人トーマツ事務  
 所の応接室で時間調節することとした。この4時  
 間強の時間何をしていたか日記に留めていな  
 い。たぶん日本内部監査協会から依頼されて  
 いたSACレポートの翻訳をしていたと思われる。

午後4時半琴平会館を出て、雪道を約500メ  
 ートル歩いて東急インへ。

CISA基礎講座の打ち合わせには、SAAJの会  
 員でもあるシー・イー・シーの江藤さんをはじ  
 め、岡山、小沢、斎藤、根岸さんなど多数出席  
 していた。何れもシステム監査に情熱を持って  
 いる人々である。午後7時までビールを飲み、  
 食事をしながら、多分メンバーがメンバーなの

で堅い堅い話に花が咲いたことであつたらう。会費5000円を支払っているのではやはり懇親会であつたかも知れない。

午後7時東急インの玄関前でタクシーを拾い新橋へ。ウィーク・デーであれば人でごった返していると思うようにタクシーが走れない鳥森の狭い通りもその日はスムーズに車を改札口の側に着けた。新橋でJRに乗り、秋葉原で乗り換え、総武線で亀戸まで、東口に出てそこからバスに乗って約12分、小松川警察で降りて午後8時我が家に帰宅。帰宅してからの行動はすでに記憶の外である。

大手の監査法人は当然のこと土、日は休みである。私の場合、通常土曜日はいろいろの所(組織体)から依頼された原稿書きやセミナーの準備に追われている。ちなみに、この年の2月8日(土)はSACレポートの翻訳、2月15日(土)はシステム監査学会に提出する論文、2月22日(土)はEDP監査人協会の合同理事会(EDPAAばかりでSAAJの仕事はと言われそう。SAAJは前日の2月21日(金)に総会があつた)といった具合である。

2月2日(日)はいつものように午前5時に起床(夏は午前4時)。我が家の迷犬ラッキー(シェットランド)と凍てついた街路に飛び出す。当然辺りは暗い。街路灯のぼんやりとした明かりのみが頼りである。両手に2.5kgずつ計5kgのタンベル(正確にはヘビーハンズ)を持ち、耳には愛用の携帯ステレオラジオのイヤホン。月曜日から金曜日までは「榎さんのおはようさん」(TBS、榎本勝起)、土曜日は「桂竜也のステキに元気」(文化放送)、日曜日は「“ひがのりお”のみんなのラジオ日曜版」(ニッポン放送：現在は番組が変わつたのでInterFM)を聞きながら約2時間ジョギング。ウィンドブレーカーの下の重ね着したTシャツは汗でびしょりとなる。朝風呂に入って汗を流し、朝食続きを摂る。あまり好きではないが健康のため納豆とヨーグルトは欠かせない。

午前9時、机に向かいSACレポート翻訳に入る。締め切りは1月31日であつたが遅れてしまった。この翻訳を頼まれた他の人たちも遅れているという噂を聞いているのでやや気が案であるが。例年であれば2月の第一日曜日は埼玉マラソン(今は「彩の国シティマラソン」と名付けられている)に参加している。この時間ともなればスタートラインに着いている頃だが、SACレポートの翻訳が遅れているのはマラソンどころではない。

12時、昼食を摂りながらテレビに映る別大マラソンをついつい見てしまう。レースはメキシコのセロンの独壇場。食い下がったのはバルセロナで金メダルをとった韓国の選手(名前が出てこない)のみである。森下、谷口、早田、中山などの日本の有力選手は、オリンピックの選考レースである2月9日(日)の東京国際マラソンに出場するので別大にはでていない。昼食が終わると、良くないと知りつつもテレビの音を耳にしながらSACレポートの翻訳。

午後3時、我が家の近く(徒歩5分)にあるスポーツクラブに行く。一週間に一度は泳がないと心配になる。普段の日曜日は午前10時前にスポーツクラブ(ジェニックス・スポーツ)に。長距離専用の5コースと6コースが私の指定席。10時ジャストにスタート。

3000メートルを1時間8分程度で泳ぐ(トライアスロンの試合が近くなると2時間つづけて泳ぐことも)が、この日は2300メートル(45分)で切り上げて、2階にあるエアロバイクへ。100ワットの負荷を加え1時間(距離に換算して29km)練習。これも普段は2時間ないし3時間行方が1時間で切り上げた。

温かい季節になると自転車の練習は外に出る。江戸川区西小松川にある我が家を出て、旧千葉街道を小岩に向かい緑豊かな江戸川堤にでる。「寅さん」で有名になった柴又から北総線の下を潜り、「野菊の墓」で有名な矢切りの渡しを経て、水元公園近くの葛飾大橋を松戸市側に渡る。松戸市の隣、古ヶ崎から松戸水門を渡り南流山へ、武蔵野線の鉄橋を潜り、更に常磐自動車道の下を潜って野田市へ。遠くに写る対岸のゴルフ場を左に見て、キッコマンの工場を右に見て、野田橋のところ(家から35km地点)で一息入る。更に江戸川を昇り川面に浮かぶカヌーを左に見て、東武野田線の川間駅を超ると、澄んだ大空にゆっくりと旋回するグライダーを上に見る。江戸川が利根川から分岐する関町町の白壁の美しいお城を折り返し点とする往復108kmは、私の自転車練習場である。アップダウンがないのが難点であるが与えられた環境に感謝している。

5時過ぎに自宅に戻り、再び机に向かいSACレポートの翻訳。

6時、夕食を摂りながらNHKの経済マガジンをみる。この番組は職業柄どんなに忙しくても見逃せない。

7時から9時まで三度(みたび)、机に向かいSACレポートの翻訳。

9時迷犬ラッキーをつれて荒川放水路と中川放水路の間にある外環状線の高速度道路の下を約3キロジョギング。うっすらと汗が滲む。

入浴して10時30分 go to bed。

《追記》一週間のシステム監査人日誌はやっと終わった。

日曜日は出来れば仕事を離れてトライアスロンの練習に集中したいと思っている。健康のために始めたことだが、練習を重ねているうち、年代別であれば優勝できるだけの力がついてきて、トライアスロンも捨てがたくなってしまった。

“二足の草鞋”ではあるが仕事もトライアスロンも頑張りたい。来る、平成8年11月10日のグアムカップは、昨年の優勝に続き今年も年代別優勝したいと願っている。(完)

### システム監査人日誌謝辞

#### No. 41 今井 純子

川野先生、4年間にわたる長い1週間をありがとうございました。平成4年当時、会報担当理事で厚かましきだけ“一流”の編集者だった私の、システム監査に従事したことのない会員のために、システム監査人の仕事と日常を日記形式でという執筆依頼に、快く筆を執って下さり、毎回、システム監査人にしておくには惜しい軽妙洒落な筆致でリアリティー溢れる日々を記していただきました。

忘れた頃に届く会報(ごめんなさい、私をやめてからはかなり規則的です。)を手にする時、真っ先に「システム監査人日誌」のページを繰りました。何を読んでいたのかと言われそうですが、ここにクレジットの楠木大樹会長兼社長、筑後運送の大門一郎社長の描写は今も印象に残っています。

仕事中に高血圧で気分が悪くなられたことをきっかけに、健康のために30歳を過ぎてから始められたトレーニングが、今日のマラソン、トライアスロンの輝かしい戦績へと実を結んでいることを知り、【継続は力なり】を再認識しました。先生に触発されて、ジョギングの虜になった会報担当のK理事。システム監査の内容以上に、先生の自己鍛錬に影響を受けた会員が多かったようです。

トライアスロンの他にも、競馬、美術、カラオケ、英会話等々。その間口の広さと奥行き

深さに脱帽です。人生の時間の使い方を教えられた気がします。“巨人-中日10.6決戦”を聞きながら、この原稿を書いています。システム監査人協会の会員の平均年齢は丁度マラソンのキロ数と同じぐらいでしょう。人生80年の丁度折り返し点をまわったところです。メイクドラマの完結のために「無事は名馬」で走りつづけたいと思います。

川野先生、11月10日のグアムカップ連覇を応援しております。

### 九州支部活動状況(5月-9月)

#### No. 307 行武 郁博

九州支部における平成8年5月-9月の例会(原則月1回、第三土曜日)の概況を報告します。

#### 5月例会

- ・ ソフトウエアビジョン(株)の福田啓二氏が今月より新たに参加された。
- ・ 「ソフトウエア管理ガイドライン」についての疑問 行武
- (1) ここでの「ソフトウエア」は「パソコンパッケージソフトウエア」という限定されたソフトウエアであるにもかかわらず「ソフトウエア」という限定されていない用語を使用していること。つまり名が体を表していないこと。
- (2) システム監査はとくに期待されておらずソフトウエア監査を行うようになってきていること。
- (3) システム監査基準(改訂)でもこの「ソフトウエア」がそのまま使用されていること。
- (4) 用語について、関連ガイドラインとの整合性を検討すべきではないか。

#### 6月例会

- ・ マツダ工業(株)川内支店の名定啓介氏が今月より新たに参加された。
- ・ 「システム健康診断をお受けになりませんか」(当協会のちらし)について 守田
- (1) 内容はコンサルティング領域を含んでおり、システム監査がコンサルティングまで含むという誤解されるのではないか。
- (2) 無料での受託は、システム監査の有料化を益々困難にするのではないか。

## 7月例会 休会

## 8月例会

- ・金子漁協(株)の平山克巳氏が今月より新たに参加された。
- ・システム監査基準の勉強が本部や各支部でも実施されているので、九州支部でも例会で勉強会を行うこととした。  
今回は主旨、用語の定義、基準の構成、実施基準の考え方、一般基準について新旧対比しながらその変更点の確認を行った。

## 9月例会

- ・フォーサイスシステム(株)の中谷正明氏が今月より新たに参加された。九州支部はこのところ、毎月のように新たな参加者を得ており支部活動の活性化につながるものと大変喜んでおります。
- ・「平成8年度システム監査台帳の閲覧に関する協力依頼について」  
上記文書が通産省より「平成8年度システム監査台帳」とともに届いたので紹介し、協力依頼した。
- ・情報化人材像 守田  
10月4日に行われるシステム監査学会創立10周年記念九州フォーラムに守田氏が講師として参加されることとなった。その講演の予稿のうち次の点について説明があった。
  - (1) システムアナリストとシステム監査人との相違点
  - (2) システムコンサルタントとシステム監査との相違点
- ・システム監査基準解説書の「はじめに」に表れたシステム監査 行武  
システム監査基準解説書の「はじめに」を新(改訂)旧対比してみるとシステム監査にたいするアプローチの相違が見受けられる。旧ではシステム監査の効率性、有効性が強調された文となっているが、新(改訂)ではセキュリティ監査の面が強調されている。
  - (1) 高度情報社会をむかえて、情報セキュリティの確保の重要性がますます認識されていること。
  - (2) 欧米のシステム監査はセキュリティ監査であり、システム監査の国際化を視野に入れた表れとも受け取れる。

第49回近畿会定例研究会  
(平成8年10月4日開催)の報告

No. 47 近畿会 石島 隆

テーマ:「コンピュータシステムに対する  
ペリル(脅威)情報の取り扱いに  
ついて」

発表者:クボタシステム開発  
神尾 博氏

討議司会:ニッセイコンピュータ  
安本 哲之助氏

神尾氏の発表は、今年の7月に神尾氏が経験した「脅威情報」に関する「事件」の紹介とそれに基づく問題提起でした。

**(事件の概要)**

7月上旬に私の友人から「ウイルス情報」の電子メールが届いた。それによると「6月に幕張で開かれた「Windows World Expo」で配布されたCD-ROM内のあるプログラムを起動するとHDD内の内容がすべて消去される」との情報であった。

私は、この友人が信頼できる人物であり、また電子メールの内容が具体的であるので、被害に遭遇した際のダメージの重大さを考慮し、社内外の知人にこの電子メールを転送した。この結果多くの感謝のメールが戻ってきた。

しかし、あるCUG (Closed User Group) にこのメールを掲載したところ、

- ・これはウイルスではなく、バグである。
  - ・フリーソフトは好意で提供されるものであるから非難するのはおかしい。
  - ・このような不確実な情報を公に掲示してよいのか。
- 等の非難が出た。

**(システム監査の観点からみた問題点)**

- (1) 不確実だがリスクの大きい情報に接した場合、その取り扱いをいかにすべきか?
  - ・システム監査人(それ以外の情報システム関係者でも)に求められる行動の基本は、「リスクマネジメント」であり、「リスク」と「リスク対策のデメリット(費用等)」を対比して判断すべきと考えられる。
  - ・私は、被害発生時の重大さを考え、デマ情報の際はお詫びを追送すればよいと考え、この情報を関係者に連絡した。

## (2) 「ウイルス」の定義をどう考えるべきか？

・ IPA(情報処理振興事業協会)担当者に照会したところ「感染機能がないからウイルス」ではないとの見解を示されたに留まった。「コンピュータウイルス対策基準」によれば、脅威を及ぼす有害なソフトであっても、「意図的」でないものはウイルスではないという認識である。これでは意図的な問題ソフトであっても本人が自白しない限り立証できないのではないか？

・ 以上の見解に対し、私は「ウイルス」と呼べなくとも有害な問題ソフトについてはウイルスに準じて対処すべきであると理解するので、現在の「定義」のあり方について問題提起したい。

## (3) 「フリーソフト」はバグに関する免責が慣行となっているが、本当にそれでよいのか？

・ PL (Product Liability)やCEマーキング、ISO9000等、信頼性・安全性が重視される時代にこのような「免責」が許容されるか考える時期にきているのではないかと思われる。

・ 企業が間接的な利益(PR、他の商品の販促等)のために提供するものとコミケなどで配るものを同列扱ひすることが果たして適切か？

・ また、配布した会社の「謝罪広告」のタイトル(「お詫び」ではなく「付録CD-ROM使用上の注意」としていること)から考えると、反省の意識があまりないと思われる。

## (4) なお、このCUGがメンバーが限定された閉鎖的な企業内(いわゆるファイアーウォールの「内側」)の場合はどうか？

現にある会社ではウイルス対応専任の担当者が配置されているにも関わらず、特定のメーカーのワクチンの配布しかしていないという例も聞いているが、このような「形式的な対応」では新しいウイルスに対しては無防備である。

## (5) 逆に、故意に虚偽情報で、相手の騒擾を狙うイタズラやテロのような手口も考えられる。

米国でクリントン大統領やジャーナリストらが大量の電子メール(いわゆる「電子メール爆弾」)により、通常の業務に支障が出ているという報道もある。

## (日本システム監査人協会理事会の見解：

平成8年7月11日)

「Windows World Expo」にて無料配布されていたユーティリティについて、ハードディスクの

内容を破壊する恐れがあるので、「ウイルス情報」として電子掲示板にて注意を促したところ、逆に反撃を受けたので、システム監査人協会としての見解を求められた。

これについて、事実に基づき警告・注意を促すものであれば問題ない、との結論となった。但し、「ウイルス」の表現の使用については、十分注意すべきである、との意見が出された。

以上のような発表に基づいて討議が行われました。参加者から出た主な意見は次のようなものでした。

## (脅威情報への対応策について)

・ 米国国防総省では、威嚇情報にレベル付けし、直ちに情報を流し、情報が確認されるに連れてレベルの見直しを行う方法をとっているとのことである。コンピュータシステムの脅威情報についても、レベル付けして情報を流す手法が必要ではないか。

・ 脅威情報をセンターに届け出てセンターでレベルを判断するか、情報を配信された個人がレベルを判断するか、いずれかで対応してはどうか。

・ システム監査人協会から、脅威情報への対応について、IPA(ウイルス対策担当)やJPCERT/CC(コンピュータ緊急対応センター、不正アクセス対策担当)への提言も必要ではないか。

## (「ウイルス」の定義について)

・ バグなど感染性がないものでも、流通性が高い(CD-ROMやネットワークによって大量に配布され、流通速度も速い)ことによって影響が広がるという意味では、同様に考える必要がある。

・ ウイルスの定義に合致するか否かに関わらず、脅威を与えるものは、レベル付けして情報を流すべきである。

・ ウイルスと有害ソフト(バグなど)を包含した対応策を考えるべきである。

## (脅威情報の発信について)

・ ネットワークに脅威情報を流す送信先の範囲は、知人(又は社内など)に限るべきかどうか。

・ 神尾氏よりこの情報を得たため、別ルートで確認した後、会社の組織を通じて、社内に告知してもらった。

・ ネットワークに脅威情報を流すこと自体は、

非難されるべきではない。

- ・フリーソフトのバグが免責されるのなら、フリーソフトに対する誤った脅威情報も免責されるのではないか。
- ・脅威情報を流す際には、匿名での発信はダメであるが、発信者が本人の責任で流すのであれば、情報源の明示は必要ないのではないか。
- ・脅威情報には、事実確認できた情報か否かを明示する必要がある。

#### (フリーソフトによる被害の責任について)

- ・フリーソフトについては、ソフト使用者の責任もある。
- ・ソフト使用者の責任は認めるが、強調し過ぎるべきではない。
- ・安心して使用できる環境作りが重要である。
- ・フリーソフトについては、民法上は責任を問われない。
- ・フリーソフトについても、商売の手段(販促のためなど)に利用する場合は、提供者に責任が出てくるのではないか。

今回の定例研究会は、話題が具体的かつタイムリーであったため、活発なディスカッションが行われました。コンピュータシステムに対する脅威の問題は、根深くかつからみあっており、情報化社会の今後を考えると、効果的な対応策立案の重要性と困難さを改めて認識しました。

#### 入会に当たっての一言

会報編集会議では、今年入会された会員の皆様に、“入会に当たっての一言”と言うテーマで寄稿していただくよう企画いたしました。本号には10名の会員から寄稿が有りましたので、掲載いたします。この企画は定期的に行っていきたいと考えています。 会報編集会議

#### No. 714 平山 克己

4年前、合格者発表の新聞紙上で協会への入会広告を初めて目にした時、「早く合格して、入会したい。」と思いました。今年の1月、やっと合格できたのですぐに入会した次第です。

入会の動機は、システム監査技術者の名に恥じない知識の習得と能力の向上です。私の住んでいる長崎では、システム監査についての情報

や関心のある人が少ないので、より多くの人と交流し人脈を広げたいとも思っています。

現在の活動状況は、九州支部の月例会への参加とパソコン通信が中心です。例会終了後にはビデオやレジメを借用して持ち帰り、先輩会員の皆様との距離を少しでも縮められるように勉強しています。

また、6月に始めたパソコン通信ではニフティのパーティオや情報処理関連フォーラムに参加しています。的はずれな事を書き込んだりしていますが、先輩会員の皆様にご指導やアドバイスをいただき、楽しくシステム監査についての知識習得に励んでいます。

皆さん、ニフティ上で月光画面のハンドル名を見かけたら、ひと声掛けて下さい。

協会に期待することは、システム監査技術者の独立的職業領域確立に向けての活動です。公認会計士や監査役を支援する立場から、もう一步踏み出す時期に来ているのではないのでしょうか。システム監査人制度の社会的合意や立法との係わりなど課題も多いでしょうが、会員の一人として少しでも貢献したいと思っています。

当分は気持ちとは裏腹に空回りな動きとなるかもしれませんが、今後ともよろしく願い致します。

#### No. 716 伊藤久仁一

<入会の動機・協会への期待>

チームを組んでシステム監査を実践するチャンスが得られれば参加したい。という期待が、入会動機の第一です。システム監査は個人で手がけるより、チームを組んで意見交換しながら場数を踏んでいくいきかたが理想的だと信じます。百戦錬磨の上級者段階は別かも知れませんが。

小生は、個人事務所を始めて1年の公認会計士です。システム監査には以前から関心を持ってきましたが、現在は直接ご縁がありません。これを表看板にする実績も不十分につき、していません。監査法人の勤務会計士時代にしたさやかなシステム監査は、ホストのデータを汎用監査プログラムで条件検索又はマッチングする、あるいは会社の情報システムの概要・内部統制環境を所定の書式に整理して弱点を会計監査手続に反映する程度の内容どまりでした。

時代はどんどん進んでいます。ある時点で試験合格レベルの知識・経験を得たとしても、専門的に見えた概念が一般向けパソコン雑誌などを通じて、次々大衆化していくご時勢です。

ネットワークがらみのセキュリティについては、ハッカーと同等以上にわたりあえるITテクノクラートになれない限り、システム監査の適格者たりえない時代に入っている感じも無いではありません。

こういう時代ですので、システム監査の特定の潜在需要自体は大きく膨らんでいるはずで、需要される範囲と程度はマチマチのはずです。システムの有用性監査の分野も、実績を積んでいきたい分野の一つです。手弁前提でも、場数を踏めるチャンスをさぐっていきたくと考えています。

#### No. 717 井口 光浩

「システム監査」って何だろう。この言葉を初めて耳にしたのは通産省情報処理試験であるという人は私だけではないだろう。システム開発に従事していた私にとってそれはあまり関係のないように思われた。

いかに複雑なプログラムを、いかに速く作成するかということに価値がみいだされるような環境では、近い将来縁のあるものではなく、そのような技術者は全く別の人種のように思えたからである。

しかし何年か仕事をするうちに、管理のされていないシステムに出会うことが多くなってきた。コンピュータが一般化する速度に、開発・使用する側の認識が追いついていないためだ。求められるものはもはや職人的な能力だけではなく一般人でも運用できる確立された開発・管理手法になった。

(というよりは、この時私自身がそのことに気がついたというだけだ。)

そういえば「システム監査基準」などというものがあつたなあ……。

システム監査といえども他人にテストされる類のことをおもしろく思えないのは私だけではないだろう。

監査で指摘されるのが嫌なら、監査する側の手の内が事前に分かればよい。

私がシステム監査に興味を持ったのはこのような動機からかもしれない。

一定の基準に基づきシステムの評価を行うことは、客観的に問題点を明らかにし、その改善を検討する機会を与えてくれるだろう。

しかし評価される側がその内容に全く興味がない状態では「絵に描いた餅」にすぎない。監査される側に意識されてこそシステムの改善がすむのではないか。

監査する側の制度や手順の充実もそうであるが、監査される側の認識の変化も期待したい。

#### No. 719 岡田 昌彦

私は、富士通(株)の地方SE会社の一つであります。(株)富士通北海道システムエンジニアリングに在籍しております。

残念ながら、システム監査に関係するような仕事はほとんどありません。

普段は、北海道内のお客様に対する仕事が多のですが、昨年7月から縁あって東京のお客様のシステム構築に携わっております。

そういう事情で、単身赴任にあいなった訳ですが、在京中にできることはないかと考え、今年に入ってから入会致しました。

仕事以外にも、コントラクトブリッジ(現在入門コース)、あるいはテニス(現在初級コース)と、少しだけ多忙?な日々を送っております。

当会の活動でちょっと残念なことは、入会以降、研究会の案内が2度ありましたが、入会前はもっと頻繁にあるものと期待していたことです。

私を含め皆さんも仕事の傍ら当会の活動も行っている訳ですからそう頻繁に活動ができないとは思いますが、月例会位の頻度で研究会があつたならばと思っております。

勝手なことを申し上げましたが、在京期間中に少しでもシステム監査の勉強ができれば幸いです。

#### No. 720 平尾 吉邦

システムを人に例えると、システム監査人は「医者」と言うことになります。ご自分が医者にかかる場合、どんな人に診てもらいたいと思うでしょうか?

私がシステムを「診る」場合、このことを一番に考えます。

難しいカオをして、良く分からない専門用語を並べる医者に好意を抱く人がいるのでしょうか?

システム監査人の場合も全く同じです。

堅苦しい単語を並べ、物知り顔で話す「システム監査人」に好意を抱く人はまずいないと言ってよいでしょう。

シロウトに分かる言葉で話すこと。分かりやすく図で表せること。やさしい表情で相手を見つめられること。実は監査技法なんかよりこの方がよほど重要です。

監査するのはシステムであっても、その結果

を話す相手は人間です。残念ながら人間には感情があり、同じ内容でも、話し方ひとつで相手の捉えかたは全く違ってきます。

「客観的」といえば聞こえはいいのですが、客観的に自分を診断され、弱みを突きつけられると、人はみな不愉快になります。

協会の方々には「システム監査試験」に合格される程の知識と実力をお持ちですから、技術的な要素についてあれこれ言う必要のない方ばかりです。

私はいつも、お客様に「聞いてもらえる」監査ができるようになりたいと思っています。

監査技法は本を見れば分かります。感性は経験によって磨くことができます。でも、お客様への接し方は、本に書いてあるとおりにいきません。相手は「システム」ではなく「人間」なのですから。

「システムは人間によって創り出される」

この言葉を胸に、ここでの活動を通じて、私はより「人間的にシステムを診れる」ような監査人になりたいと考えています。

新参者ですが、宜しくご指導願います。

#### No. 723 黒田 賢三

昨年から企業会員としてシステム監査人協会に参加させていただき、阪神大震災での被害分析・対策など貴重な情報を得ることができました。今年度からは、個人会員となり、さらにシステム監査に関する技術・情報・動向について勉強して行きたいと考えています。

一般的に、システム監査に対する社会的な認知度はまだ低いと感じており、また、同様に監査人に対する社会的責任も余り明確になっていません。しかし、今回のシステム監査基準の改訂では、システム監査人の責任の明確化と監査能力の向上が要求される内容となっており、システム監査人の能力向上による実際に効果があるシステム監査が必要になってくると考えます。また、実際に効果があるシステム監査実績を積み上げることで、システム監査の認知度も自然と上がってくるのではと期待しています。

現在のシステム監査基準は、大企業の大型情報システムを想定したものとなっており、中小企業では、そのままでは余り役に立つ基準になっていません。しかし、情報システムは、中小企業においても急速に重要性を増してきており、中小企業を対象としたシステム監査環境の整備が急務と考えています。そこで、システム監査人協会には、中小企業の内容に適したシステム監査ツール(チェックポイント集、チェック

シート、標準監査手順、等)の整備を期待したいと思っています。

#### No. 724 市丸 信子

物事はすべからずPLAN, DO, SEEのサイクルで行われています。私の情報処理システムへの携わり方は、まずDOの世界、システム構築の世界から入りました。APシステムの構築、ツールの作成と種々のS/Wの開発に従事してまいりました。品質、工数ともに思いどおりにはいかないものです。この混沌とした状況を少しでもより良い方向にサイクルアップさせていく必要をひしひしと感じ、それには現状をきちんと評価することが重要であると認識するに至りました。そんな訳で通産省のシステム監査試験が始まった頃からこの分野に興味を持っておりましたが、日々の作業に流されたまま時間が過ぎいつしかシステム監査が遠い存在になりかけていたところ、最近再びシステム監査に目を向ける機会を得、今になってようやく当協会に入会することができました。これからは今までの経験と知識を生かしながら、微力ではありますがシステム監査の普及と、それによる情報処理システムの健全化に寄与できればうれしく思います。

#### No. 726 松下 二郎

この度は、日本システム監査人協会に入会させていただき、誠に有難うございました。

小生は現在、総合商社の情報システム部門で品質管理を進めています。弊社は、情報システムの開発・維持管理・運用業務の各事業部門への分散・分権化を進めていますが、一方、全社的な整合性の確保と品質・生産性の向上を図るために、全社に適用する情報システム基準/標準の設定・運営やシステムレビューを強化すべく、1991年より品質管理チーム(チーム制を敷いています)を設けています。システム監査との関わりは、かつて監査部に出向してシステム監査を社内に普及・定着させるために、システム監査基準の設定などの基盤整備に従事したのがきっかけで、諸先輩の研究活動に参加させて頂いております。目下の重要テーマとして、(1)C/Sやインターネットをはじめとする新技術による情報化領域の拡大策および併せて増えるリスクの回避策、(2)情報化の戦略的活用に向けた費用対効果の客観的把握法に注力しております。本会を通じて、様々な分野の諸先輩との交流を通じて更なる研鑽を積み、また、些少ながらお手伝いができればと思っています。

**No. 731 石丸 敏明**

この度は、会員に入会登録の通知を頂き、ありがとうございます。

会員番号は731ということで、会報No.39では一番新しい会員番号ということになります。情報処理システム監査技術者時代からの試験合格者の総数のうち、恐らく20数%の方が入会されており、会員名簿を拝見しますと、会員の方々は全国にわたり、また仕事の分野も幅広く多岐にわたっており、皆様の関心の深さ・会としての活動の広がりをあらためて感じた次第です。

私は、昭和61年度第1回の情報処理システム監査技術者試験に合格したもので、当協会の設立の動き等も、その時期に情報として聞いたことがあります。関心は持っていたのですが、多忙(言い訳ですが)を理由にしていました。しかし、平成7年のシステム監査基準の見直しの動きなどから、必要性をあらためて考え直し、入会の申込みを致しました。

システム監査の資格を取得した時点からみても、コンピュータのダウンサイジング化・オープンシステム化・インターネット活用の広がりほか、情報・通信関連技術の急速な発展には、まさに目を見はるものがあります。そして、利用が深く・広がりを持つほど、システム監査の重要性が増してくるものと考えます。

私は、情報処理サービス・ソフトウェア企業で長年システムの開発・運用に携わってきましたが、システムの開発を成功させ、システムの安定運用を行うのに王道はないものと思います。やはり、当たり前作業をきちんとやっていくことが、成功のベースだと思います。そしてこのことは、システム監査にも通じることだと思います。

これからどうぞよろしく願い致します。

**No. 732 瀧中 英一**

瀧中英一(たきなかえいいち)と申します。東洋情報システムで、スタッフ部門の立場で全社の品質管理・品質保証を担当しています。以下、入会の動機と今後の抱負について述べます。

所属する組織や団体の立場も、年齢も経験年数も超えて、会員の方々との真剣な意見交換ができることを期待します。どうぞよろしく願いいたします。

**(1) 会社概要**

株式会社東洋情報システムは、昭和46年創立の総合情報サービス会社で、SIサービス、ソフトウェア開発サービス、グローバルVANサービ

ス、アウトソーシングサービスの各分野を手がけている。従業員は約2000名、売上高は約570億円である(平成8年3月期)。

**(2) 現状の課題と対応策**

91年から95年までの景気低迷によるソフトウェア開発及び情報システム需要の減少と、急激な情報技術革新への対応のため、当社ではここ数年以下の施策を実施してきている。

- 1) ビジネスの再構築(既存分野/新分野、新技術対応)
- 2) 組織の改革(事業部の統合による拡大、組織のフラット化、課制の廃止等)
- 3) 人事制度等の改革(能力・成果主義、役職制度見直し等)
- 4) システム導入(全社電子コミュニケーション環境、品質保証体系等)

これらの施策の一環として、全社の品質改善の基盤としてのISO9000導入プロジェクト管理の改善のために技術KI計画の導入を行っている。

**(3) 私の略歴**

昭和55年(80年)入社以来、リース会社及びクレジット会社の大規模システムの開発と保守をリーダー、役職者として約10年間担当した。その後、研修部門で全社向けの人材育成を約3年担当し、93年からは現在の技術本部で主にISO9000の導入の仕事に携わってきた。最近のもう一つの担当職務に、ソフトウェア技術者の知的生産性を高めるための「技術KI計画」の導入推進がある。

(技術KI計画は、(株)日本能率協会コンサルティングが開発した、技術者の知的生産性向上のための技法で、計画通りにビジネスを進める(QCD)ことと、ビジネスを通じた個々人の成長を目的とし、そのための方法として、「見える計画」と「正しいマネジメントスタイル」の定着を主張する。現在約100社の導入実績があり、ソフトウェア企業も多い。参考書「技術者の知的生産性向上」岡田幹雄 日本能率出版。)

**(4) 現在の担当職務**

現在は、品質保証部で、主に4つの施策に取り組んでいる。

- 1) ISO9000の全社展開(ISO9000認証取得推進による、全社の品質保証体制の確立。
- 2) その基盤の上に、品質向上のための仕組みや制度をさらに拡充強化する。
- 3) ISO9000に準拠する品質保証体制でなく、特定プロジェクト向けの品質保証体系の構築と実施の支援。

4) 技術KI計画の導入と全社展開による、ヒューマンウェア面からの管理の改善。

私は、上記のうち、特に4)を中心とし、加えて部門の個別支援を、設計審査及び事実上のシステム監査として実施しているが、自分の使命は

1) 効果的な品質システム、プロジェクト管理の仕組みを構築し維持管理しその実施を通じて、QCDの管理を改善する。

2) 部門やプロジェクトの問題解決を個別に支援して部門に利益をもたらす。

の2つであると考える。

(5) システム監査と現在の私の担当職務との関連

上記の4つ施策推進には対象部門の現状的確な評価が必要であり、部門インタビューと文書や記録の実査を行っている。一種の監査を行ってはいるが、ISO9001の要求事項以外には、スタッフ側に共通の客観的な基準はなく(CMMの導入は検討中だが)、もっぱら自己の経験、自社や他社の事例に照らしてプロジェクトやシステムの現状を評価している。

(6) システム監査人協会への入会動機

プロジェクトを評価する姿勢や立場は「見ていれば問題は分かります」という経験主義的な立場をとるか、又は対象部門長、事業部長の問題意識を把握してそれに合致する指摘を替わりに行うことが中心で、基準も明確でなくまた監査の独立性にも問題がある。そこで、監査部門(品質保証部)にとって、ISO9000でなく、一般的に認められた公式の監査基準に従うシステム監査へのニーズは高まっていると考える。については他社の事例研究も含め私自身がシステム監査について再度学ぶ必要があると判断した。

要するに、組織としての監査基準の確立が必要であり、筆者の後任の監査人の育成にも客観的な判断基準が必要である。

(システム監査基準に合致し、当社の実態にも合った監査基準)

そこで、知人や同業他者の知恵と経験を少しでも学びたく、また相互啓発もできる研究会への参加を思い立ちました。

システム監査人協会に入会を希望した動機は以上です。

(7) 保有資格

第2種情報処理技術者	(80年)
第1種情報処理技術者	(81年)
特種情報処理技術者	(85年)
システム監査技術者	(94年)
システムアナリスト技術者	(95年)
中小企業診断士(情報)	1次のみ 96年

## 日本セキュリティ・マネジメント学会 第10回学術講演会に協賛

掲記講演会を開催するにあたり協賛団体として参画するよう、同学会(JSSM)より協会に提案がありました。講演内容も協会の目的に合い、協会員の参加費も学会員と同額となる利点もあり、開催に協賛しましたので、多数の方々に参加されますようご案内いたします。開催要領は下記のとおりです。

### 記

- 開催日時：11月18日(月) 10.15-4.30
- 会場：港区芝公園3-5-8  
機械振興会館地下3F  
第2研修室
- プログラム：
  - 10.15-10.30 挨拶 JSSM会長 清水 汪 氏
  - 10.30-12.00 講演「電子商取引とセキュリティ」  
FISC理事 関根武彦 氏
  - 12.00-13.00 休憩
  - 13.00-14.30 講演「OCNサービスの概要」  
NTT部長 西郷英敏 氏
  - 14.50-16.20 講演「情報通信と情報保護を  
巡る国際的潮流」  
一橋大学教授 堀部政男 氏
- 参加費：会員(JSSM, SAAJ) 1名 3千円  
非会員 1名 6千円
- 問合せ先：JSSM事務局  
TEL：044-245-7690  
FAX：044-200-7341

**システム監査学会 10周年記念  
公開シンポジウム開催**

掲記の公開シンポジウムが、システム監査学会の10周年を記念して2日間にわたって開催される。会報No.38で予告したように、下記のように各研究会の成果が発表されるので、当日の資料は貴重なものとなる模様である。当協会の相談役、副会長などの会員の方々も発表されるので是非とも参加されるようご案内いたします。

## 記

1. 開催日時：11月13日(水)14日(木)  
10.00-17.00(両日とも)
2. 会場：機械振興会館ホール
3. 統一論題：「21世紀に向けたシステム監査  
研究と実践の課題」
4. プログラム(概要)：  
〔挨拶〕八木大会実行委員長  
〔司会〕加藤大会実行副委員長

## 第一日

基調講演 10年の回顧とこれからの展望  
会長 宮川 公男 氏

- 発表1 コンピュータシステムと法的リスク  
居林 次男 氏
- 2 情報技術の変革と監査アプローチ  
川野 佳範 氏
  - 3 システム監査実務の現状とその課題  
斉藤 隆 氏
  - 4 情報システムの経営合理性について  
竹井 芳郎 氏
  - 5 システムコストの分類の視点  
田名部 均 氏
  - 6 システム監査基準を有効に活用する  
ための考察 岡田 定 氏

## 第二日

- 発表7 情報セキュリティ対策の検討プロセス  
鳥居 壮行 氏
- 8 ネットワーク・コンピューティング  
監査の基本問題 八嶽 幸信 氏
  - 9 リスク分析の意義とその手法  
森宮 康 氏
  - 10 阪神大震災とコンピュータリスク  
安本哲之助 氏
  - 11 戦略的アウトソーシングの成功要因と  
システム監査 加藤 武信 氏
  - 12 クライアントサーバシステムのコント  
ロール 松尾 明 氏

## 5. 10周年記念パーティ：

第一日(13日)の夕方 17.10-19.00

## 6. 参加費：

シンポジウム学会員 2千円(当日3千円)  
非会員 5千円

記念パーティ 5千円

## 7. 問合せ先：システム監査学会事務局

TEL：03-3432-9387

FAX：03-3432-9389

**棚橋泰文氏 衆院選にご当選！**

この度の衆院選に岐阜2区から立候補されていた準会員 No.624 棚橋泰文氏が見事当選されました。ご当選を心からお祝い申し上げ、ご活躍をお祈り申し上げます。

日本システム監査人協会

## 日本システム監査人協会会員の皆様

日本システム監査人協会10周年を記念して、アンケートを実施することになりました。会員のご意見を承ることにより今後の活動に役立てたいと思っておりますので、率直なるご意見をお待ちしております。ご回答くださいますようお願いいたします。

回答送付先 日本システム監査人協会事務局 FAX 03-5350-9269  
メールでご希望の方は、KHC02413@niftyserve.or.jp

回答期限 96年11月30日

### 【日本システム監査人協会会員アンケート】(該当項目に丸印)

#### 1. フェースシート

- 1-1 会員番号[ ]  
 1-2 合格年度[ ]  
 1-3 所属支部(地域)[ ]  
 1-4 勤務先(複数回答可)  
 1) 電算機製造または販売企業 2) ソフトウェア企業 3) SO認定企業 4) 情報処理サービス企業  
 5) システム監査認定企業 6) 農林水産業・鉱業 7) 建設業 8) 製造業  
 9) 流通業 10) 金融・証券・保険業 11) 運輸・通信・倉庫・不動産 12) 電力・ガス事業  
 13) 広告・調査 14) サービス業 15) 官公庁 16) 学校・研究機関  
 17) 学生 18) その他
- 1-5 従事している関係業務  
 1) 情報処理 2) 研究開発 3) 調査企画 4) 総務 5) 営業販売  
 6) 製造 7) 教育 8) 監査 9) その他
- 1-6 他に持っている資格(複数回答可)  
 1) 技術士 2) 中小企業診断士 3) システムアナリスト  
 4) その他の情報処理技術者試験 5) 電気通信主任技術者 6) 弁護士  
 7) 弁理士 8) 公認会計士 9) 税理士  
 10) C I S A (システム監査) 11) 外国(公認会計士) 12) マイクロソフト等が実施する認定試験

#### 2. システム監査技術者試験受験の動機は何ですか。

- 1) 自己啓発(スキルアップ) 2) 資格手当がもらえるから 3) 会社からの要望  
 4) 転職などに有利 5) 個人的な興味

#### 3. 日本システム監査人協会を何で知りましたか。(複数回答可)

- 1) 新聞広告 2) 友人・知人 3) 雑誌 4) Niftyのフォーラム 5) 他

#### 4. 日本システム監査人協会に入会した動機(複数回答可)

- 1) 勉強の場がほしい 2) 仲間がほしい 3) 活動内容に興味があった  
 4) 情報収集がしたかった 5) 誘われたから 6) 他

#### 5. 日本システム監査人協会での活動参加経験

- 5-1 活動に参加したことがありますか。 有 ・ 無  
 5-2 参加したことがある人へ、何に参加しましたか。(複数回答可)  
 1) 月例会 2) 事例研 3) セキュリティ研 4) 会報への投稿 5) 支部活動 6) 他  
 5-3 参加されたことが無い方へ、理由は何でしょうか。  
 1) 興味の持てるものが無い 2) 身近に活動の場が無い 3) 知らなかった

#### 6. 日本システム監査人協会へ期待されていることを教えてください。

[ ]

#### 7. システム監査を実施した経験はありますか。

- 7-1 有 ・ 無  
 7-2 有のかたへの質問です。  
 1) 日常業務として 2) 事例研等の活動として 3) 他

#### 8. システム監査の知識はどのように得られていますか。(複数回答可)

- 1) 日本システム監査人協会の活動 2) 日本システム監査学会等他の団体への参加  
 3) 本、雑誌を読む 4) セミナー受講  
 5) 他

#### 9. システム監査普及の障害要因は何だと思われますか。

[ ]

#### 10. システム監査をより普及させるためにはどのようにすればよいと思われますか。

[ ]

#### 11. その他、ご意見

[ ]

## 新規所有図書のご案内

担当理事 馬場 要輔

当協会で新たに所有(購入、受贈)した、図書・資料等を下記の通りご案内申し上げます。なお、「借出手続」については、会報No.38(96年7月号)をご参照ください。

## 記

図書番号	タイトル	発行者名・出版社名
KS032	内部統制の統合的枠組み (理論編)：COSOレポート	白桃書房
KS033	内部統制の統合的枠組み (ツール編)	白桃書房
KS034	ソフトウェア関係契約書式集	第一法規

## NIC@SE セキュリティのエキスパート集団

日本コンピュータセキュリティ(株)は、セコム(株)と日本電信電話(株)の合併会社です。

### コンサルティング

お客様のニーズに応じた適切な対策、改善提案を行います。

- ・システム監査(監査の実施及び導入支援など)
- ・安全対策(各種基準に基づく診断など)
- ・危機管理(マニュアルの作成、監査など)
- ・情報漏えい防止 など

### Security File

セキュリティ情報を集大成した加除式ファイルで、製品情報、セキュリティ基準、事例、解説などを掲載

- 内容：暗号、ファイアウォール、災害復旧計画、情報犯罪、参考資料など、約100項目、900ページ
- 年2回の更新でさらにボリュームアップ
- 価格：初年度15万円/年、以降10万円/年

### ソフトウェア

#### □CBR：災害復旧計画作成支援

災害復旧計画の作成・テスト・保守を支援するエキスパートツール

- ・実災害を通じた豊富なノウハウ
- ・4種類のサンプルプランと250の復旧手続
- ・動作環境：Windows 3.1～
- ・価格：150万円～、保守料金37.5万円
- レンタル95万円/年

※単一組織向けの「Small Office Version」あり

#### □SAExpert：システム監査支援

システム監査の計画立案から監査報告書の作成までの全プロセスを支援するエキスパートツール

- ・監査領域の選択をサポート
- ・集大成された監査ポイントと手続のサンプルデータベース
- ・問題点分析ワークシート
- ・各種基準、指針に対応した監査手続を順次リリース
- ・動作環境：Windows 3.1～
- ・価格：150万円～

日本コンピュータセキュリティ株式会社

〒112 東京都文京区目白台2-7-8

Tel:03-5395-8551 Fax:03-5395-2321

## 新規入会個人会員

番号	氏名	勤務先・所属	
732	瀧中 英一	(株)東洋情報システム	技術本部品質保証部
733	越智 俊介	山一情報システム(株)	監査部
734	鈴木 章司	(株)ビック東海	SI事業部システム開発2部

## 新規入会登録企業会員

番号	企業名	部門・窓口	
6014	日本コンピュータセキュリティ(株)	情報セキュリティ事業部	法岡 邦男

日本システム監査人協会10周年記念総会  
日程きまる

日時：平成9年2月21日(金)午後より  
場所：日本ユニシス(株)本社会議室  
東京都江東区豊洲1-1-1  
会員の皆様 今から日程を空けて参加をご予定下さい

発行所 日本システム監査人協会  
発行人 橘和 尚道  
事務局 〒151 東京都渋谷区笹塚2-1-6  
笹塚センタービル5F  
(株)産能コンサルティング内  
TEL. 03(5350)9268 FAX. 03(5350)9269

※ご連絡はなるべく郵便または、FAXでお願いします

会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)  
三谷慶一郎 (株)NTTデータ経営研究所  
TEL. 03(5467)6321 FAX. 03(5467)6322  
金子 長男 (財)公営事業電子計算センター  
TEL. 03(3343)4560 FAX. 03(3343)6742  
富山 伸夫 (株)データ総研  
TEL. 03(5695)1651 FAX. 03(5695)1656  
木村 陽一 共同VAN(株)  
TEL. 03(5321)3208 FAX. 03(5321)3201  
山内美佐子 伊藤忠テクノサイエンス(株)  
TEL. 043(285)1892 FAX. 043(285)1889